

H30. 6. 25 魅力あるまちをつくろう！部会議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 30 年 6 月 25 日(月)午後 7～9 時 東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 魅力あるまちをつくろう！部会委員 7 名、他部会委員 1 名

議題 1 平成 29 年度運営方針自己評価について

- ・送付資料 2・3 に基づき説明

議題 2 平成 30 年度東淀川区運営方針の改定について

- ・当日配付資料 2 に基づき説明

議題 3 今後の取組みの方向性について

- ・当日配付資料 4・5・6 に基づき説明

ワークショップ

- (1) 「29 年度運営方針自己評価に基づいた課題について」
- (2) 「平成 30 年度東淀川区運営方針の改定について」
- (3) 「将来ビジョンを踏まえた今後の取組みの方向性」

(新たな担い手の発掘について)

- 地域貢献したいが、働いている世代は休日で仲間内でしか集まれないのでできることが限られる。PTA 等の他の団体との連携がない。何ができるか、という議論の前にその土俵にあがっていない。できるものがやればいいとなると一握りの人がすることになり、仲間内しか連絡しなくなるため、他に情報がこない状態である。
- 豊新は保育園や介護の施設が多くある地域なので、それらの点々の活動をつなげる役割として地活が声かけて提案や協力してもらい、バザールのイベントをした。スタートは個人で活動していたボランティア活動が、地域で広げることができた。
- ボランティアや地域貢献をしたい、という人はいるが、実際どう参加していいかわからないという人がいる。その人たちをどう取り込んでいくか、埋もれている人をどう発掘していくか、が問題である。地域に住んでいる人以外にも広げて発掘していかないと煮詰まっていく。一部世代交代しているが、地域の役員枠で人を回していると高齢世代が多く、地域のボランティアに若い人・新しい人を取り入れて回る仕組みを作らないといけない。

「情報がない・時間がないがボランティアに興味がある、という人をいかに取り組むか」という課題について、運営方針に取組みを記載しているところである。埋もれている人がこうしたら発掘できるのでは、という案を引き続きご提案願いたい。

(コミュニティ回収)

- 目的がよくわからないし、地域の方の理解が深まっているとは思えない。
- 回収してくれない等、問題があった時にどこにいったいいかわからない。
- コミュニティ回収でない、契約していない業者が一部マナーの悪い集め方をしているようだ。
- 制度が定着すると落ち着くが、出す方もわからないから、コミュニティ回収はこういう垂れ幕がある車という周知をし直した。

- ・地振・地活の連絡会議で説明させていただいたところであるが、環境局を中心とした支援チームがあるので説明に行くことも可能である。
- ・回収してもらえない場合、事業者との契約なので契約違反になるので環境局に連絡とっていただきたい。

(町会単位の集団回収)

町会が、時間・場所を決めて仕切っているところは財源になっている。町会が決めていないところはバラバラで分別できてない状態になっている。

(地域担当制について)

- 従来の地域担当制の活動に加えて、災害の時の避難所開設を取り組むことになったのか。
- スタンスが変わったことを地域は認識しているのか。
- 震災時の避難所開設の際、よく知っている職員の顔でなく、また連絡待ちばかりで受け身に映り心細かった。指示がなく不安な気持ちになった。

- ・災害の時の派遣が地域担当制のメインであり、避難所開設ができる程度に日ごろから顔見知りになり地域に入り込んでいこう、というスタンスに今年度から変更した。
- ・今まで地域担当制により職員が分野を問わずに入り込んでいたため、方向変更により急に変えにくいところもあるので、徐々にこのスタンスの変更が地域に浸透するようにしたい。
- ・地域担当制の職員は防災について今年度2回程度しか研修をしていないので、当日不安な部分があったかもしれない。
- ・区役所の課単位で地域を決めているので、今後は人が変わっても引き継ぎができるようにしたい。

(小学校のプールについて)

○小学校の屋上にプールが設置されているが、地震の際、水が入っていて大丈夫か、という声が地域であった。

- ・避難所になる施設であり、大阪市としても耐震診断し補強しているので、水が入った状態で地震が起こっても大丈夫な構造になっている。